

令和3年度 新異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和3年度 新異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	73	63	55	4.2	10.7
	大阪市	—	61	55	5.1	12.3
5月27日	全国	—	64.6	57.2	4.4	11.2

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	70	64.4	43.7	46.5	40.5	53.1	5.7	5.6	8.6	3.1	2.2
	大阪市	—	65.6	47.5	46.9	42.6	52.9	7.3	5.8	10.7	4.1	3.1
	9月14日 大阪府	—	65.8	48.2	48.1	43.0	53.2	7.6	5.8	11.2	4.5	3.4
2 年	学校	76	55.3	53.9	60.3	52.9	55.2	12.9	4.6	7.1	3.8	5.3
	大阪市	—	57.5	51.2	59.0	53.8	57.8	12.1	6.4	9.4	5.5	5.5
	1月19日 大阪府	—	58.8	52.2	60.1	53.1	58.5	11.9	6.4	9.4	6.3	5.6
1 年	学校	64	53.9	51.8	50.5	52.0	62.6	4.9	3.9	7.6	6.5	4.9
	大阪市	—	60.8	56.2	57.2	60.7	62.6	9.7	3.0	6.0	3.8	4.6
	1月13日 大阪府	—	62.2	—	58.5	—	63.5	9.7	—	6.2	—	4.7

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	72	97.6	106.0	135.9	90.5
	10月19日 大阪市	—	100.9	108.0	140.3	93.0

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 1500m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	77	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	27.95	24.59	44.29	50.83	76.48		8.27	196.18	20.83	39.76
	大阪市	28.90	26.27	42.12	51.88	78.32		8.08	195.40	20.03	40.71
	全 国	28.80	25.99	43.67	51.19	79.88		8.01	196.36	20.31	41.18
2 年 女 子	学校	22.83	15.42	40.19	44.03	58.03		8.90	165.94	12.94	44.08
	大阪市	23.42	22.44	44.71	46.94	53.61		9.01	167.76	12.62	48.08
	全 国	23.43	22.32	46.20	46.25	54.24		8.88	168.15	12.72	48.56

令和3年度 新異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、以前平均点は下回っているが、その差は、平成30年度、令和元年度と比較して、かなり縮まってきており、大阪府の平均を越えている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」などは全国よりも上になっている。しかし、「読むこと」の領域にだけが下回った結果となった。長い文を読むことに不慣れな傾向だと読むことがきる。

＜数学＞ 全国と比較して、「図形」領域において、特に「平行四辺形になるための条件を用いた説明」「扇形の弧の長さを求める問」の正答率が低かった。定義・定理・公式の定着と活用が不十分である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

国語：学力状況調査同様の成果が出ているため、「書くこと」に関する部分は確かな実力となっている。

社会：歴史的分野において、正答率が大阪府平均に近い、スコアを取ることができている。

数学：領域等別平均点で見ると、「関数」が市や府のスコアを上回っていた。

理科：大阪市に比べて平均点は2ポイントほど低かったものの、無回答率は1ポイント低かった。問題形式別平均点では「記述式」が上回った。

英語：総合的に見て、正答率が大阪市平均を上回ることができている。

＜課題＞

国語：学力状況調査の課題に引き続き「読むこと」の領域が課題となっている。中でも説明的文章に対する力が課題である。

社会：令和元年度実施と同様の傾向にある。課題として、資料から読み取ったことを表現する力をつけること、社会的な見方・考え方を働かせた記述ができることが浮かび上がった。

数学：「図形」「データの活用」が伸び切らないのは全国学力調査と同様の傾向である。

理科：平均点で「生命」の範囲が下回り、「知識・技能」の観点も下回っているため、知識として定着することが課題である。

英語：リスニング力は上がっているものの、英作力や文を書く力が伸び切らないのが課題である。

○大阪市英語力調査(GTEC)において、

＜成果＞リーディングでのパートでは、短い文章をいくつかの意味のまとまりごとに区切りながら英文を読み進める力は身につけている。また、ライティングでも1つのテーマで3文程度の文章を書く力はついている。

＜課題＞ライティングにおいては、「いつ」「どこで」「何を」「どのように」などの観点で、より詳しい具体的な英文を書いたり、自分の考えを表現することに課題がある。

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテスト(PLAS)

＜成果＞

国語：漢字の読みや敬語などは府平均を上回っている。また、選択式の問いの正答率は比較的高い。

社会：基本的な用語の理解は大阪市の平均よりは低いものの、高い正答率をとることができている。

数学：無回答率が0の設問が複数あり、完全に試験をあきらめてしまう生徒はいない。

理科：記述式の平均正答率が市の平均を上回ることができた。

英語：リスニングは大阪市と比較しても正答率が高い。

＜課題＞

国語：語彙の不足や文脈をとらえる力の不足が見られ、いろいろな種類の文章を読み、読解力を上げる必要がある。また、漢字の反復練習や語彙力を増やすためのプリントなどを継続して取り組むことが必要である。

令和3年度 新異中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

社会:資料等の活用・記述による解答が必要なものの正答率が低い。授業の中での活動を通して資料を活用したり、資料から読み取ったことを文章化する力をはぐくんでいく。地理の成績が低いので、改善していく。

数学:全体を見ると中間層が少なく、得意・苦手に分かれている。中でも苦手側については20~40点の層が33%と目立って多い(府平均では同じ階級は18%)ので、この層を持ち上げてあげられるように細かく基本的な指導が必要である。

理科:知識技能の正答率や基礎問題の正答率が低いので、授業に対する姿勢や勉強に対する意欲を上げていく必要がある。

英語:ライティングにおいて正しい文法や語句を使って自分の考えを表現する力が乏しい。特に、スペルの間違いや細かい文法のミスが多いように感じる。そのため基本的な語句や文法の定着を図る必要がある。

2年生

＜成果＞

国語:敬語や資料を活用する問題、文脈をとらえ全体をとらえる問題などの正答率が高い。また、選択式の問題の正答率が高い。

社会:大阪府の平均を超える成績を収めることができた。特に地理での正答率が高かった。

数学:府平均を僅かに超える成績であり、前年と比較して大きく改善された。最低でも15点は取れている。

理科:「粒子」「生命」の分野の平均点や「記述式」の平均点が大阪府の平均を超えた。

英語:「聞くこと」の分野において大阪市の平均を超えることができた。

＜課題＞

国語:漢字の読み書きや、文章内での語彙の適切な使い方などが苦手である。様々な文章を多く読み、自分の考え・意見を表現する力を語彙力とともに上げる必要がある。

社会:歴史の正答率が低かったこと、知識・技能の正答率が低かったことが課題である。基本的な用語の確認を積み重ねることが必要である。

数学:分布を見ると15~19点の階級の6.6%が浮いた形になっており、どのように伸ばしてあげられるか考える必要がある。

理科:中央値や標準偏差は大阪府を上回っているが、平均点は下回る結果だったので、全体のレベルアップが必要である。

英語:まとまった英文を「読むこと」「書くこと」に課題がある。まずは基本的な語句や文法の定着に努め、自分の想いや考えを表現する活動を増やしていく。

【今後に向けて】

3年間続けてきた「縦持ち授業」「ベシック・テスト」および「パフォーマンス課題への取り組み」の充実をはかり、自ら考え、自ら行動ができる取り組みをしながら学力および体力の向上を図って行く。教科を横断した取り組みもおこないながら、様々な事象に興味関心を持たせながら、自分の考え等を伝える能力・パフォーマンス能力も鍛えていく。